



ストーリー二本立て
・強制ver
・催眠ver

お堅い風紀委員長が
どっぴもエツちな姿を
みんなに披露しちゃう話♡

基本CG10枚 (合計116枚)
差分込み本編68枚(34枚×2編)
文字なし47枚 + α

強制編

私の名前は東條まや。

この学校の風紀委員長を任されている。

私がいる限り、学校の風紀が乱れることない……！

……思い出すのも恥ずかしいあの一件によつてか、

父の経営する会社は倒産を免れ、今は平和な日々が続いている。

キラッ



男子生徒

「よう、東條。ちよつと話があるんだ。」

(クラスメートの○○。こいつがきつかけで私はあんなことに……)

(あの一件以降、こいつとはあまり関わらないようにしていたが……)

「……何の用だ？」

「……実はな、例の店での『東條の働く姿』おれ知っちゃてるんだわ。」

(……なな、なんだって!?)

「東條の太客がこっそり撮影してよ。」

それを店が見つけてデータを押収したんだが、知り合いの店員が

あんなに稼いでくれた娘を紹介してくれたお礼にっつて、

おれにも譲ってくれたんだわ。お前かなり頑張ってたじゃん(笑)」



(……ということとは、私の破廉恥な姿をこいつに見られ……)

「頼む……そのデータを渡してくれ!」

「まあ、そうくるよな。」

「じゃあおれの言うことを、なんでも聞いてくれれば渡してやるよ。」

「……何が望みなんだ？」

「あんなモノ見ちゃったおかげで、お前の恥ずかしがる姿をもっと見たくなってな(笑)」

今日から3日間、あの店でやっていたような『コト』を校内でやってくれたらデータを渡してやるよ。」

「!? あんなコトを、しかも校内でできるわけないだろ!!」

「本当にそうか? 最後の方は自分も楽しんでたように見えたけど?」

「う、うんちよ……」

「やれないなら、データはネットにばら撒くし、学校の新聞部に提供するから、明日から校内で東條は有名人になるけどいいか?」



「それは駄目だ……どうしたらいい?」

（そ、そうだ……校内の風紀を守るためでもある。どんな要求をされるか分からないが、今はとにかく言うことを聞くしか……。）

「物分りがよくて助かるわ(笑) じゃあ手始めに、ミニでスカートまくってみ。」

(こんな場所で…風紀委員長の私が…。)

「やらないのか？じゃあデータは新聞部行きだな。」

「ま、待て！」

撮るようなことは絶対無しだからな…これ、いいか…？」

まやはゆっくりとスカートをめくり、パンツがもろに見える格好になる。



「安心して撮影なんかしないから。」

こつち側には生徒はいないし、まだ見られないから安心してらうって。てか、あの店で履いてた同じパンツじゃん(笑)」

「…うんざい！ た、たまたまだ！」

「はいはい。時間も無いしそのパンツも脱いでもらおうか。」

「パ、パンツを…？
さ、さすがにこれ以上は無理だ！」

「新聞部の部室であつちだったよな？」

（くっ…負けるな私…。）

「おれはお前のあの破廉恥な姿はもう見てるんだぞ？
今更遅いって。ほら早く。他の生徒が怪しむぞ。」

まやは覚悟を決め、パンツを脱ぎ、
男子生徒に向かって下半身を晒す。



「…これで満足だろ…この変態め…！」

「よしよし。下の毛は写真で見た通りだな。
東條ってそこそこ生えてるよな。」

「くっ…感想はいいから！もっいいだろ！」

「まだ物足りないな！そのまま足を開いてみる。」

「そんな破廉恥な格好…後ろからもばれるだろ！」

「店じゃ散々やってたじゃないか(笑)
やるまでパンツは返さないぞ。ほら早く。」

(くっ…誰も気づかないでくれ…！)

まやは足を大きく開き、がに股の格好になる。

(うっ…死ぬほど恥ずかしい)
「後で見えておきなさいよ…。」

「その格好で言われてもね(笑)」
じゃあ次は放課後の命令で勘弁してやる。」

「えっ…まだ続くの!？」

「当然。可能な限り楽しませてもらわないとな。」

(調子に乗って…見てるよ!
こうなったら3日間、耐え抜いてみせる!)



(今日の教室掃除、東條はベランダから窓拭きをやってもらおう。
さっき伝えた通りのやり方で拭くんぞぞ。

クラス中に風紀委員として、積極的に掃除に取り組む姿勢を見せてやれよ。)

(…って言われてその通りに準備してしまってるけど…。
カーテン越したからまだはつきりと中から見えてないと思うけど…。)

(風紀委員長の私が、あんな店で働いていたなんて知れたら
どうなるのか分からない…。一時の恥なんだ！我慢しろ、まや！)

「おい、みんな。東條が外から窓拭きしてるぞー。
手伝ってやろうぜ。」

(あいつの声だ！)

(!?)

カーテンが開かれると、そこには丰满な胸を窓ガラスに押し付けているまやの姿があった。クラス一同から、驚きと興奮の声が上がる。

ドキ

ドキ

(うう…みんなにおっぱい見られて…死ぬほど恥ずかしい…)

「今日の窓拭き掃除は私がやってやろう。ほ、ほら、みんなもしっかり掃除するんだぞ!」

えっ東條!?!
まじで!?!

ピロ
ト
ッ
♡

ヒッ
ロー

「みんな、窓はこらやって丁寧に拭くんだぞ！」

まやは、胸を窓ガラスにピッタリくっ付けながら、上下に動かし始める。

(私は何やっているんだ…。早く終わってくれ…!)

ドキ

ドキ

「さすが東條、自らをお手本になるなんて偉いなく。」

(誰が好きでこんなことを…!)

東條の胸、
でつか…

いいぞー!
東條!

しーん

しーん



「なんだ東條、自分からやっておいてずいぶん恥ずかしそつだな。そんなんじやみんな『満足』できないぞ！」

(あ、あいつ余計なことを……)

「そんなことないぞ。ほらほら！みんなもつとよく見てくれ！」

ドキ

ドキ

しゅん

しゅん

やっべー！
エロすぎんたらー！

この醜態を晒しながらの窓拭きは、全面が終わるまで続いた。
この衝撃的な出来事後、今週の風紀委員の活動が、
「授業を含む校内活動に、風紀委員長が体を張って貢献する」というのに決まったという噂が広まった。

いいぞー！
東條！

次の日、保健体育の授業に「教材」として
教壇に乗ることになったまや。

(あと2日か……。こんな醜態を
晒すことになるなんて……。
脅迫されている以上、
折れるわけにはいかない……！)

(……でも、これはさすがに、恥ずかしい……！)
「き、今日は特別授業だ。私の体を使って、
普段は生で見ることができない女子の秘密を
説明してやるぞ……！」

全裸で自らの恥部を晒す風紀委員長の姿に
生徒達の視線はくぎ付けになった。



全裸で教壇の上に座り、両足を抱えた体制で、
恥ずかしい部分を惜しげもなく披露するまや。

「これでよく見えるか？後ろの人も見えてる？
こんな機会をもうそわないだろっから
よ、よく見ておくまっ……！」

風紀委員長の奇行にざわつく教室に構わず、
まやは自分の恥部の説明をしていく。

「じゃあまずはまのの説明をしよう。」

「この隠れて見えにくい部分がい、陰核といっ……」

（うう……みんなの視線が熱い……）



まやは、なんとか自我を保ちながら説明を続ける。

「そしてこれが、私の、肛門だ。
皆も自分で普段見ない場所だらうからじっくり観察してくれ。
さすがに恥ずかしいけど、授業前にちゃんとトイレで
き、綺麗にしてきたから大丈夫だぞ。」

「おい東條、もっとよく見せてくれー。」

「くっ…あいつまた余計なことを…。
「し、しようがない…特別だからな！」

まやは、言われた通りに自分の肛門をさらに開いて見せる。

うわあ…
丸見えじゃん…

風紀委員長として
まずいだら(笑)

女
体
育
が
バツ

ガッ

ガッ



まやは、奥が見えるように肛門を広げる。

「…これでいいか？
綺麗にしたといっても奥は恥ずかしいぞ…。」

体育 危険♡

普段は規則にうるさくお堅いイメージしかなかった東條まやが、言われるがままになる姿を見て、男子生徒達は一層興奮した。

「今度は後ろから見たいぞー！」

「ん、ちよつと待て…。」
(うっ…授業時間が永遠のように長く感じる…。)

カア…

ザワ

ザワ

ピッピッ

クパッ♡

まじで開いてる
えっ…

顔真っ赤じゃん(笑)
もっと思せろー！

「よいしょと…みんな、これでどうだ？」

まやは、教壇の上に四つん這いになり、お尻を突き出す格好になる。

(ああ…私はなんて恰好してるんだ…。
いや、冷静になっちゃだめだ！もう少しの辛抱だ！)

ズイッ♡

(みんなの熱い視線が…
私のお尻に向けられているの分かる…。
くっ…みんなも好き勝手言うて…！)

でかいケツもつと
振れー(笑)

委員長いぞー！





四つん這いになったことで、恥部がより見るようになり、足も広がったことで、一層下品な格好になったまや。
(皆の顔が見えないからか、余計に視線を感じる気がする……)

「東條、また開いてくれー(笑)」

(ま、またあいつ…我慢だ、我慢…!)
「わ、分かった…」

東條って意外とケツでかいんだな(笑)

エロ過ぎ…
下品すぎるだろ

フル

フル

ザワ

ザワ

トッ
ツッ
♡

尻体

「これでもいいか？」

「おおおおお……」

男子生徒達から歓声が上がる。

グアイッ♡

(お尻の穴なんてどこがいいのか……
全く理解できない……けど……)

まやは、この異様な状況があのお店での記憶を思い出させ、
思いとは裏腹に体が熱くなるのを感じ始めていた。

ザワ

ザワ

やっば！
丸見えじゃん……！

お……！
写メ取っちゃお(笑)

まやは、下品な格好のまま肛門を広げたポーズを維持する。

「ど、どうだ、じっくり観察して、ノートに写してくれてもいいんだからな。」
（…って、何言ってるんだ私は…。）

（東條のやつ、この状況にあてられて墓穴ほってるじゃん（笑））

（根が素直で真面目だからか、やつぱりむつりだからか？（笑）
このままいけばもっと面白いものが見れそうだ…。）



自分で開くの
すげえな…

肛門バクバク
しちやてる
じゃん…

肛門にリコーダーが挿入されていく。
通常では考えられない痴態をクラスメートに見せつけるまや。

「よ、よし。入ったぞ…みんな見えるか？」

(んんっ…異物が入ってる感覚が…
でも意外と痛くはないな…
むしろ気持ちいい…?)

「…じゃあまずは音出しから。よく見ててくれよ」

まやはリコーダーを左手で支えながら力をこめ始める。

ドキ
ドキ

ズニョ♡

ザワ

ザワ

すっげえ
光景…

ほんとに
入ってるよ…
えっろ(笑)

「んんんっ……！」

(あれ……？音が出ない……！)

肛門に力を入れるが、なかなか空気を送ることができず、リコーダーを突っ込んだままの体制で力み続けるまや。



声援という名の野次が男子生徒から浴びせられる。
(くっ……人の気も知らないで……！)

もっと力めー！
東條ー！！(笑)

委員長
聞こえないぞー(笑)

ザワ

ザワ

リコーダーを肛門に固定し、両手を机に付け、更に気張るまや。本来は口で吹く楽器が、まやの肛門から突き出る格好になる
「このままじゃ終われない！早く鳴ってくれ……！」
「んんんっ……！」

プーッ
プーッ……

(！?)



カア……

イッ!

ピッ〜♪

ザワ

ザワ

うわっ!
屁も出た!(笑)

ナイスサーピス!
さすが東條!(笑)

思いつきり力んだ結果、音と一緒におならも漏れてしまった。

(…なんて醜態を…恥ずかしくて死にたい…)

こうして、まやの破廉恥活動2日目は終了した。

3日目は美術の授業で破廉恥活動。

「今日は私がモデルになるから、み、みんなしっかり観察して描いてくれよ」

(当たり前のようにヌード…まあ予想してたが…とにかく今日が最終日なんだ…やり抜いてみせる！)

まやは、裸に布一枚をまとい、ポーズを取る。

生徒達は、その姿をまじまじと観察し、時折野次を飛ばしながら鉛筆を走らせていく。



ワキ

ワキ



委員長がモデルとか最高じゃん(笑)

サワ

東條、目線くれー(笑)

サワ

サワ



(あれ……この布ちよつと透けてきてる……?)
「お、おい。」の布……」

「その布、温度で透ける仕様なんだわ。
ほら、動くなつて(笑)」

「くっ……みんな早く描いてくれ……!」

隠していた胸の形が分かるほど布は透け、
まやは、ほぼ全裸の状態ポーズをとり続ける。



カキ
カキ

もう
ほぼ全裸じゃん(笑)

おっ!乳首も
見えてきた(笑)

サラ
サラ

ガク

ガク

「東條一、全体見たいからもう布取ってくれー(笑)」

「(やっぱりそうなるんだな……)」「(これでもいいか……?)」

まやは観念し言われた通りに透けた布をどかし、生まれたままの姿になる。

「せっかくモデルなんだから、もっと笑顔で(笑)」

「(こんな状況で笑えるか……くっ!)」

「ん……(ニク)」

恥ずかしい気持ちを押し殺し、震えながらも要望に応えていくまや。

……

「……じゃあもう「れへっさいどいいか?」

「うーん、最後にもっと大胆なポーズが見たいな!」
「こっ足を開いて……」

「……っ……?」



わき

わき

震えちゃってる
じゃん(笑)

委員長の生ヌード
やっぱ(笑)

ザワ

ザワ

ザワ
ザワ



(うう……流石にこんな格好……)

ひっくり返った状態で下から足を抱えて
開脚した格好にさせられるまや。

「じ、じっくり観察してくれよ……。」
(こんな姿見られるなんて……お嫁にいけない……)

「せつかくだから空いているスペースに何か挿れてやるか……
おっ……!」
「れなら丁度良さそうだ」

(?……今度はなんだ?)



いい格好だぞー
委員長(笑)

おおっ!
すげえ体勢(笑)

ちょうど美術室に飾られていたチューリップを肛門に挿入され、まやはさらに滑稽な姿になる。

もはや花瓶じゃん(笑) 頑張れ委員長!

「ほら、花が倒れないように肛門でしっかりキープしてくれよー ちゃんと描いてやるから(笑)」

「…わ、分かったから、は、早く描いてくれ!」
「うう…恥ずかし過ぎる…」
「…でももう少しの辛抱なんだ…頑張れ私!」

まやは、下品な格好を生徒達に晒しながら、ただただ時間が過ぎるのを待った…

ちゃんと気張ってる(笑) 目線くれー!



風紀

最後の活動は、風紀委員長として自己紹介も兼ね(?)、
全校生徒に尻を披露するというもの。

まやは、壁に固定され身動きとれない状態で
パンツ丸出しの尻を晒す。

噂を聞きつけたギャラリィが集まってまやのお尻を取り囲んでいく。



(…壁の向こうで人の気配がする。
ああ…緊張してきた。)

恥辱と、少しの期待で震えるまや。



風紀

パンツを剥がされ、恥部が丸出しになる。
生尻のみが晒された状態に興奮するギャラリィ。

「これが委員長のまま〇こと肛門…エロ過ぎだろ(笑)」
「こんなこと格好晒すなんて、さすが風紀委員長様だな(笑)」
「くっ…好きで晒してるわけじゃ…!!」



まやは、壁の向こうの相手に為すすべもなく、
自分の恥部を視察され続ける。



ビブツ



すげー
生で初めて見るわ…



御開帳♪
丸出しえっろ!

「おい委員長！聞いてるだろー？」

「お望み通り、お前の恥ずかしいところ見てやるから、もつとサービスしろ！」

(…サービス?)

「ああ…だからこうして腕が出ているのか…し、仕方ない…」「こっかな？」

「おお広げ始めた！中まで見えそう！」



「まやは、腕が自由になっっていることを察し、ギャラリイに対し、よく見えるように肛門を広げた。」



「すげー…！どんな顔して広げてんだ(笑)」



「おい、これ突っ込んでみようぜ(笑)」
ずにゆにゆ...

(んんっ...♡何か布のようなものを挿れられてる...)
風紀委員のシンボルである大事な腕章が、
ま〇こに挿入されていく。



まやは、自ら肛門を開きながら、守るべき証を
ま〇こに唾えこむという恥辱的な姿を晒し続ける。



すんなり
入っていくじゃん(笑)

あーあ、腕章
ぐちゃぐちゃ(笑)

風紀

ずりゅ...っ!!

愛液まみれになった腕章が取り出され、そのまま元の場所に飾られる。



(...はあはあ、よく分からないけど抜かれたようだな...)

まやは、ま〇こから愛液が垂れてることも分からないまま、肛門を開き続ける。



「風紀委員長が物欲しそうに垂らしやがって、いじってやるよー」
肛門とま〇こを同時に責められるまや。

(!?)

今まで自慰行為の経験がないまやにとって、
その刺激は強烈だった。

「んあっ……やめっ……」



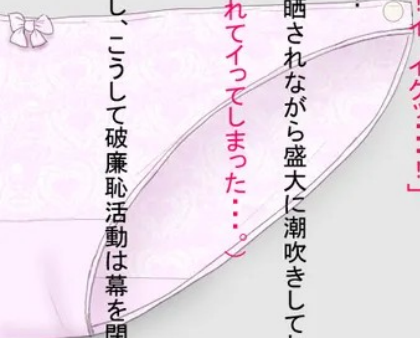
風紀委員長 東條まや

「んんんっ……!! イイクッ……!!」
「んんん……」

多数の視線に晒されながら盛大に潮吹きしてしまう。

(ああ……弄られてイってしまった……)

3日目を終了し、こっして破廉恥活動は幕を閉じた……。



委員長のま〇こ
やわらけ〜(笑)

うおっ!!
潮吹いた!(笑)

翌日

「お疲れさん。本当にやり遂げるとは流石だな、東條。しばらくは抜きネタに困らないわ(笑)」

「ぐっ…そんなことはいいから、早くデータを渡せ！」

「はいよ、データはこの中だ。コピーはしてないから安心しな(大嘘)」

「信じるからな…これからは今まで以上にきつく取り締まるから覚悟しとけよ！」

「はいはい、お手柔らかに頼むぜ。」

(…正直、あんなに言うこと聞いてくれると思わなかったな(笑)
揺すりネタも増えたし、今度はどんなことを強要してやるかな(笑))



(結果的に状況にあてられ、とんでもないことをしてしまったが、なんとか堪え切った…。
とりあえずはデータを回収できたから…あとは…。)

「！？おい、その男子！私を見て前かがみになるのをやめろ！」

翌月の校内新聞は風紀委員長長の痴態が一面を飾った。

その結果、しばらくは男子生徒達からまやに対するラブコールが絶えず、
今まで以上に風紀委員員の活動は活発になった…。

催眠編

私の名前は東條まや。

この学校の風紀委員長を任されている。

私がいる限り、学校の風紀が乱れることない……!

…思い出すのも恥ずかしいあの一件によってか、
父の経営する会社は倒産を免れ、今は平和な日々が続いている。



男子生徒

「よう、東條。ちょっと話があるんだ。」

(クラスメートの○○。こいつがきつかけで私はあんなことに……。あの一件以降、こいつとはあまり関わらないようにしていたが……。)
「……何の用だ？」

「……実はな、例の店での『東條の働く姿』おれ知っちゃてるんだわ。」

(……なな、なんだって!?)

「東條の太客がこっそり撮影してよ。」

それを店が見つけてデータを押収したんだが、知り合いの店員があんなに稼いでくれた娘を紹介してくれたお礼にっつて、おれにも譲ってくれたんだわ。お前かなり頑張ってたじゃん(笑)」



(……ということとは、私の破廉恥な姿をこいつに見られ……。)
「頼む……そのデータを渡してくれ！」

「まあ、そうくるよな。」

「じゃあおれの言うことを、なんでも聞いてくれれば渡してやるよ。」

「……何が望みなんだ？」

「あんなモノ見ちゃったおかげで、お前の恥ずかしがる姿をもっと見たくなってるな(笑)」

今日から3日間、あの店でやっていたような『コト』を、校内でやってくれたらデータを渡してやるよ。」

「……またあんな醜態を、しかも校内でできるわけないだろ……」

「本当にそうか？ 最後の方は自分も楽しんでたように見えただろ？」

「う、うるさい……風紀委員長の私が……絶対にしないぞ！」

「やれないのなら、データはネットにばら撒くし、

学校の新聞部に提供するから、

明日から校内で東條は有名人になるけどいいのか？」

「……ばらまけばいいさ！ そ、そんなことで私が屈するとも思ったのか……」
(自ら進んであんな醜態を晒したら、それこそ風紀が乱れてしまう……。)



「あんな弱み握られているのに、さすが東條。

……分かったおれの負けだ。データを渡してやる。

じゃあこのスマホに入れているんだが、一旦確認してほしい。」

「自分であんな姿見るなんて嫌だが仕方がない……どれだ？」

まやは、男子生徒のスマホを覗き込んだ。

(!?!?.....)

スマホを覗き込んだ途端、まやは意識が飛び、放心状態になる。

「意外にあっさりかかったな……(笑)」

(これなんでも言うことを聞く状態になったわけだが、
ただ言いなりにするのもつまらない……)

(……よし、東條の常識を変えてやろう(笑))

「よく聞けよ東條、『下品な行動は、風紀をよくする』
だから積極的に下品にふるまうんだ。分かったら目を覚ませ。」

(……はっ!)

「……今、意識が飛んでいたような……お前何かしたのか？」



「いや何も？」

それで結局『校外で風紀守るため頑張っていた』データはどうする？」

「ん？ああ、あれはいんだ。活動の一環だからな。
もっとそれを見て参考にするんだぞ……？」

(よし、しっかりかかっているな。)

「それはそうと、風紀委員の見回りはそんな普通な感じでよかったのか？
スカートめくってやる決まりだろ？」

「おっと、そうだったな。」

そう言つとまやは躊躇なくスカートをめくり、
パンツを晒す格好になる。

「やっぱり『下品な』格好にならないと。
生徒達の模範にならないといけないからな。」

「さすが風紀委員長だ。様になってるぞ(笑)」

「当然だろう。」

「…今日はなんだかいつも以上に
積極的に活動したい気分になってきたぞ。よし…。」

(真面目な性格だからか、忠実に取り組もうとしてるな(笑))

今度はパンツを下げ始めるまや。

ス...
...
...



自ら下半身を露出し、見せつけるような格好になる。

「これでより『下品』になったな。お前はどっと思うっ？」

「すごくいいと思うぞ。」

そんな格好できるのはやっぱり東條だけだ(笑)」

「ふふっ、そうだろう。」

おいそこのお前たち！

ネクタイをきちんと締めないか！身だしなみはしっかりするんだ。」

(自分はガバガバな状態なのに(笑))

まやは、下半身を晒け出しながら堂々と見回りをしていく。

「よし、じゃあ次は『うしろ』。」

そう言うとまやはスカートをめくった状態のまま、足を大きく開いていく。

ス...



がに股姿で自分のま〇〇が見せながら、廊下にいる生徒達に注意をしていくまや。
まやのその姿に、周りの生徒達がざわつき集まり始める。

「なんだお前たち、もうすぐ休み時間が終わるぞ！
早く自分のクラスに戻るんだ！」

「ほらお前たち、委員長もこう言ってるんだから解散しろって。
今だけじゃないんだから、楽しみにしとけて(笑)」

「…今だけじゃない？どういう意味だ？」

「気にするな(笑)
それはそうと、そつえば今週は風紀強化週間じゃなかったか？」

「ん？そうだったか？私としたことが忘れていたようだ。
じゃあ今週は一層『下品』な活動に注力していかないとな。」

(予想以上に催眠にかかっているな…これから楽しみだ)



放課後になっても風紀を保つため、まやの『破廉恥活動』は続いていく。

(自分の体で『下品』に掃除するところを見てもらおう。)
みんなの意識を高めてもらおう。

「今日の窓ふきは私が担当するぞ！」

まやはそう言うのでランドンダに出ていき、
裸になり、自分の巨乳を窓に押し付け始めた。

「みんなも『下品な』私の姿を見て
掃除に取り組むように！」

風紀委員長の突然の行動に、生徒達はあっけにとられ、
窓に押し付けられ形を変えるおっぱいにくぎ付けになっていた。

えっ!?!
東條?

やっば!
なんだなんだ?

ピトッ♡



まやは、おっぱいを窓ガラスにピッタリくっ付けながら、上下に動かし始める。

「ほら！お前たちも見ているだけじゃなくて体を動かすんだ！いつもでも掃除が終わらないぞ！」

教室の中からおっぱいの動きがよく見え、生徒達は掃除どころでなくなり、風紀委員長のストリップ観賞会になっていた。

(まあ、これだけ『下品』な姿をみんなに見てくれれば今日のところはこれでいいか。)

東條の胸、でつか…

いいぞー！東條！



「じゃあせつかくだから、今日の窓吹きは全部私がやるぞ。
明日からは私のお手本にしっかり掃除するんだぞ！ほらほら！」

まやは一層気合が入り、激しくおっぱいを動かし続け
それに合わせて生徒達は興奮し煽りまくる。

（これだけ喜んでくれるのに、今までなぜやらなかったんだろう……？
よし、もっと活動の幅を広げていこう！）

（東條のやつ、なんか嬉しそうだな(笑)）

このストリップをきっかけに「風紀委員長 東條まや」が変態に
なつたと学校中に広まるが、誰も止めようと動くことはなかった。

よっ！
さすが委員長！

もっと激しく
動かせー！！



次の日、男子の保健体育の授業に参加することになったまや。

「風紀委員長の東條まやだ。」

保健体育は異性間交友のためにも大事な授業だ。

そこで、必要な知識を身に付けてもらうために、

「私自身が体を張って女子の生体について説明を行う。」

するとまやは、全裸になり教壇の上に乗る。

そして、両足を大きく開き、

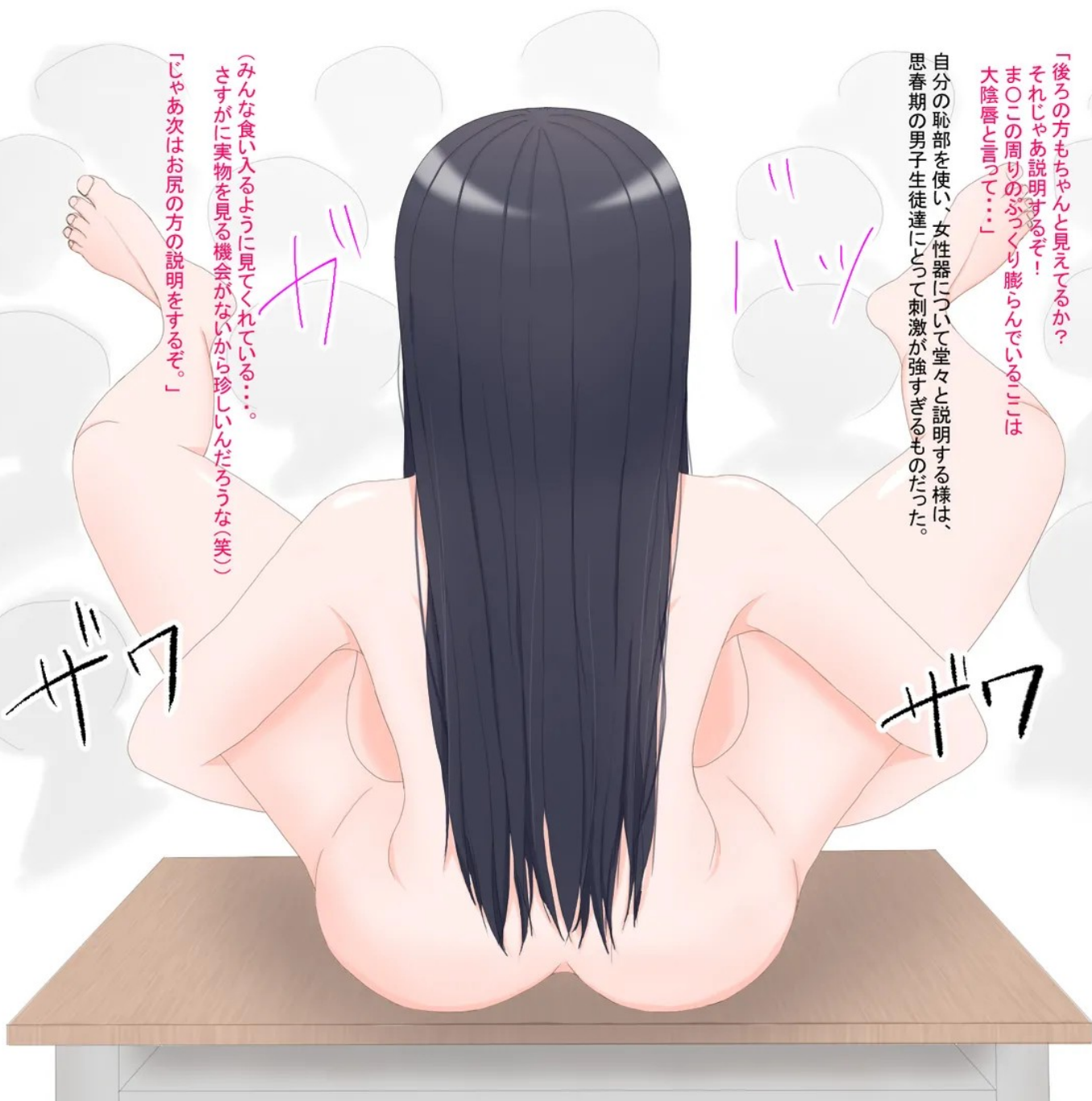
生徒達に恥部がよく見える体制になった。



「後ろの方もちゃんと見えてるか？
それじゃあ説明するぞ！
ま〇の周りのぶつくり膨らんでいる」は
大陰唇と言ってる…」

自分の恥部を使い、女性器について堂々と説明する様は、
思春期の男子生徒達にとって刺激が強すぎるものだった。

(みんな食い入るように見てくれている…。
さすがに実物を見る機会がないから珍しいんだろうな(笑))
「じゃあ次はお尻の方の説明をするぞ。」





「これが私の肛門だ。皆も自分で普段見ない場所だろうからじっくり観察してくれ。触りたい人がいたら後で触らせてやるからな。授業前にちゃんとトイレで綺麗にしてきたから大丈夫(笑)」

通常ではあり得ないことを口にしながらか説明を進めていく。

「それじゃ中が見えるようにちよつと広げてみるぞ...」

まやは、自分の手で肛門をさらに開いて見せる。

うわあ...
丸見えじゃん...

風紀委員長
どうしたんだ?(笑)

女体保険

ガッ

ガッ

体育 危険 保険

「...これでどうだめさ？」

流石に奥までは見えないかな？

それだけ普段はピツタリ締まっていると聞いてどうだめさ。次回はもっと開けるように色々試して「なまこ」を思っ

(今の東條は、『下品な行動』風紀のため』という認識になつてから、風紀委員としてまっとうな「女」をこなしていると思つてるんだろ(笑))

普段は規則にうるさくお堅いイメージしかなかった東條まやが、とんでもない格好で語りかけてくる状況に男子生徒達は興奮しっぱなしになっていた。

「じゃあ体勢を変えて、別の角度から見てもらうおっか。」

ザワ

ピッピッ

クパッ♡

肛門びくびく
してるし...えっろ！

肛門開くと
こんな感じに
なるのか(笑)

ザワ

まやは、教壇の上に四つん這いになり、お尻を突き出す格好になる。

「よいしょと……この格好だとお尻がよく見えるだろっ？」

一番前の席の生徒からだ、息がかかるくらい近い距離にまやのお尻が来ていた。

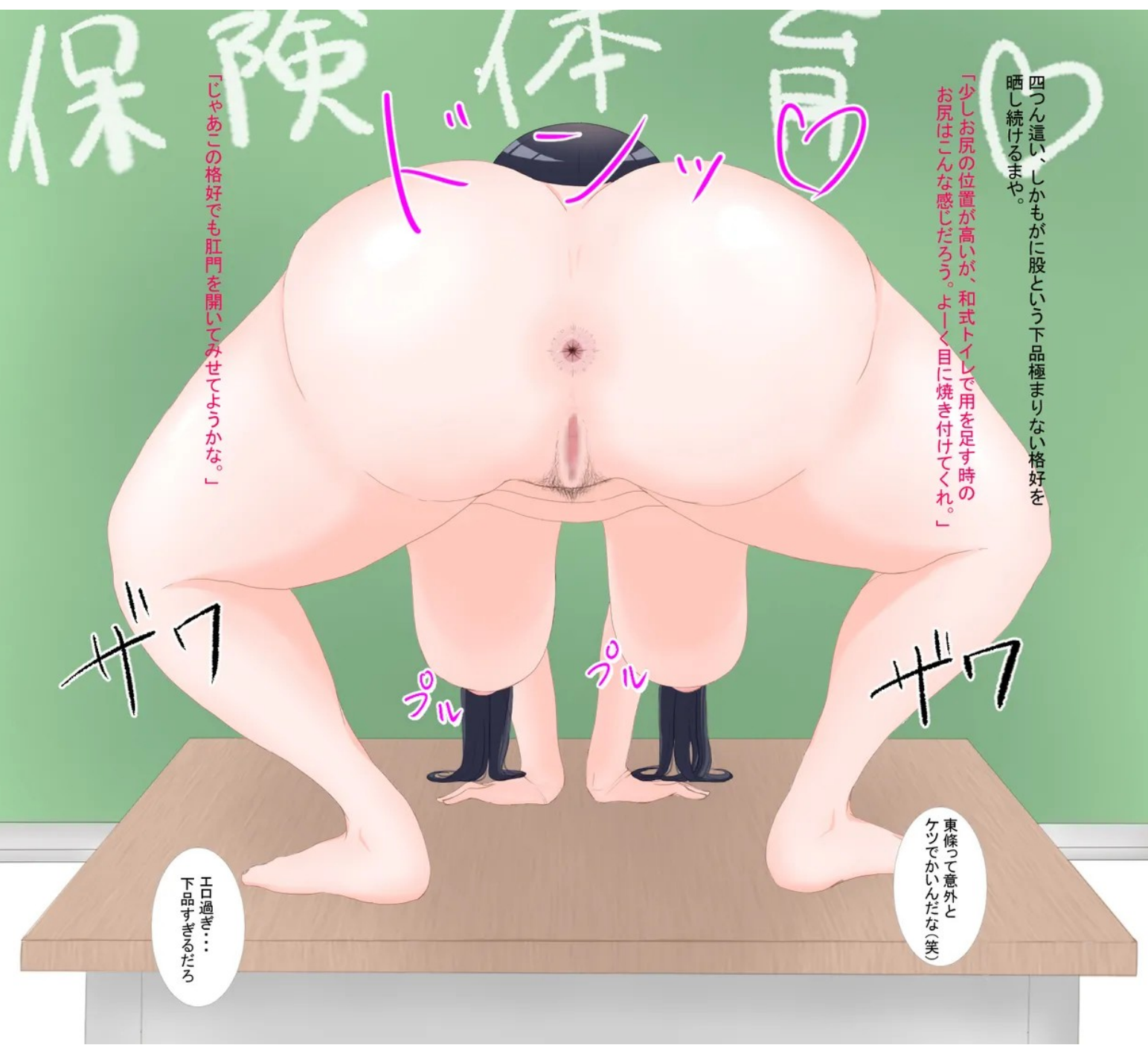
ズイッ♡

ザワ

ザワ

委員長長いぞー！

でかいケツもって
振れー(笑)



四つん這い、しかもがに股という下品極まりない格好を晒し続けるまや。

「少しお尻の位置が高いが、和式トイレで用を足す時のお尻はこんな感じだろう。よく目に焼き付けてくれ。」

「じゃあこの格好でも肛門を開いてみせてようかな。」

東條って意外とケツでかいんだな(笑)

エロ過ぎ...
下品すぎるだろ

自身体験保険

ザワ

ザワ

フル

フル

ト

ツ

♡

「おー……」

下品な格好のまま、さらに自分の肛門を広げて
見せつけるまや。

「さすがにこの体制は結構きついな(笑)
みんなどうだろう？ 広がっているか？」

グアイッ♡

ザワ

ザワ

おー……！
写メ取っちゃお(笑)

やっぱ！
丸見えじゃん……！



まやの肛門は、両手でしっかりと広げられていた。

「せつかくだし、ノートに写してくれてもいいし、スマホで撮ってもいいからな。」

まやは生徒達に記録してもらったため、肛門を広げたポーズを維持する。

(東條のやつ、風紀活動してると思って真面目に

取り組んでるんだらうけどかなり積極的だな(笑)
それとも、元々はこういうのが好きだったりして(笑))

それから授業時間いっぱい、風紀委員長の下品な解説は続いた。

肛門バクバク
しちやこてる
じゃん…

自分で開くの
すげえな…



まやは音楽の授業でも破廉恥(風紀)活動を行うことになった。

「今日の音楽はリコーダーの練習だ。
私がお手本を見せるから、みんな吹き方を
よく観察するように。」

そう言っと、制服を脱ぎだすまや。
そのまま全裸になると教壇に乗り、
お尻を突き出す格好になる。



尻でうまく
吹けるのか?(笑)

うっわ...
全部見えるじゃん

まやのその行動に音楽室内はざわめく。

「じゃあ早速リコーダーを吹いてみようか。」

まやはそう言うと、リコーダーを取り出し、肛門に挿入していく。通常では考えられない痴態を晒すまやの姿に音楽室内はざわめく。

「みんな大丈夫、お尻はちゃんと洗ってきてるから。んん…ちゃんと入ったな。」

「スニョ♡」

「じゃあまずは音出しから行っぞ。」

まやはリコーダーを左手で支えながら力をこめ始める。

「ザワ」

「ザワ」

すっげえ
光景…

ほんとに
入ってるよ…
えつろ(笑)

「んんっ……！」

肛門に力を入れるが、なかなか空気を送ることはできず、
リコーダーを突っ込んだままの体制で力み続けるまや。

「おかしいな……さっきの練習でお腹の空気を
出し切ってしまったか……？」

(せっかくみんなが見てくれてるんだ。
風紀委員長として頑張らなければ……！)

プ
ン

70
ン

ザ
ワ

ザ
ワ

もっと力めー！
東條ー！(笑)

委員長
聞こえないぞー(笑)

リコーダーを肛門に固定し、両手を机に付け、更に気張るまや。本来は口で吹く楽器が、まやの肛門から突き出る格好になる。

「んんんっ……！」

プッ。プッ。プッ……

思いつきりかんだ結果、音と一緒に肛門からも漏れてしまった。

ピク〜♪

プッ!

ザワ

うわっ!
屁も出た!(笑)

(よし! 出た……!)

「あ……みんなすまん! 音を出すことに夢中になって、穴を抑えるのを忘れてしまった(笑) 今度はちゃんと演奏するから見ていてくれ。」

まやのお腹の空気が空になるまで、この破廉恥な演奏会は続いた。

ザワ

ナイスサーブス!
さすが東條!(笑)

今度は美術の授業で風紀活動。

「今日は私がモデルになるから、みんなしっかりと描いてくれ。」

まやは、裸に布一枚をまとい、ポーズを取る。

(みんな普段より集中して取り組んでいるようだ…。特に男子の視線が凄く感じるな。)

生徒達は、その姿をじっくりと観察し、まやの裸体を描きあげていく。



ガク

ガク

サラ
サラ

東條、
目線くれー(笑)

委員長がモデル
とか最高じゃん(笑)

ガク

ガク

「ん?...この布、透けてきてるな。こんな小道具だったのか。」
隠していた胸の形が分かるほど布は透け、
まやは、ほぼ全裸の状態ポーズをとり続ける。

「ちよっどいい。最初隠れていた乳首も描き込んでみてくれ。
乳輪は少し大きめで、綺麗なピンク色だぞ。」

まやは全く恥ずかしがることなく、被写体を続ける。



もう
ほぼ全裸じゃん(笑)

おっ！乳首も
見えてきた(笑)

セラ
セラ

ワキ
ワキ

セワ

セワ

「えーいー」ここまで透けてるならもう不要だろ！」

まやは透けた布をどかし、糸纏わぬ状態になる。
生徒達は隠れていた箇所を観察しながら描き加えていく。

……

(せっかくモデルをやらせてもらってるんだから
もっと下品で破廉恥なポーズをしたいな！)

「……じゃあそろそろポーズを変えようと思う。
そのクッション取ってくれ。んつと……よいしょ！」

そう言っと、まやはひっくり返り
アクロバティックな体勢を取り始める。



わき

わき



委員長の
全裸エロ過ぎ……

ザワ

ザワ

生ヌード
やっぱ(笑)

ザワ
ザワ



「この方が色々観察できるだろう。」

「お……」

教室内で思わず歓声があがる

ひっくり返った状態で下から足を抱えて
開脚した格好になるまや。

「んっ……ちよときつい体制だから
早く描いてくれよ(笑)」



「ギャッ」

「せっかくだし、もっと工夫してみようか。
そこに飾られてるソレ、取ってくれ。」

まやは、ソレの近くにいる男子生徒に頼みごとをする。

「おおっ！
すっげえ体勢(笑)」

「いい格好だぞー
委員長(笑)」



ソレとは美術室に飾られていたチューリップだった。
まやはそのチューリップを肛門に挿入し
さらに下品で滑稽な姿を披露する。

「これで華やかさと下品さが加わったんじゃないか？」

(…でも意外とチューリップを固定するのきつい…(笑)
でも表情が変わっちゃまずいし、踏ん張るぞ！)

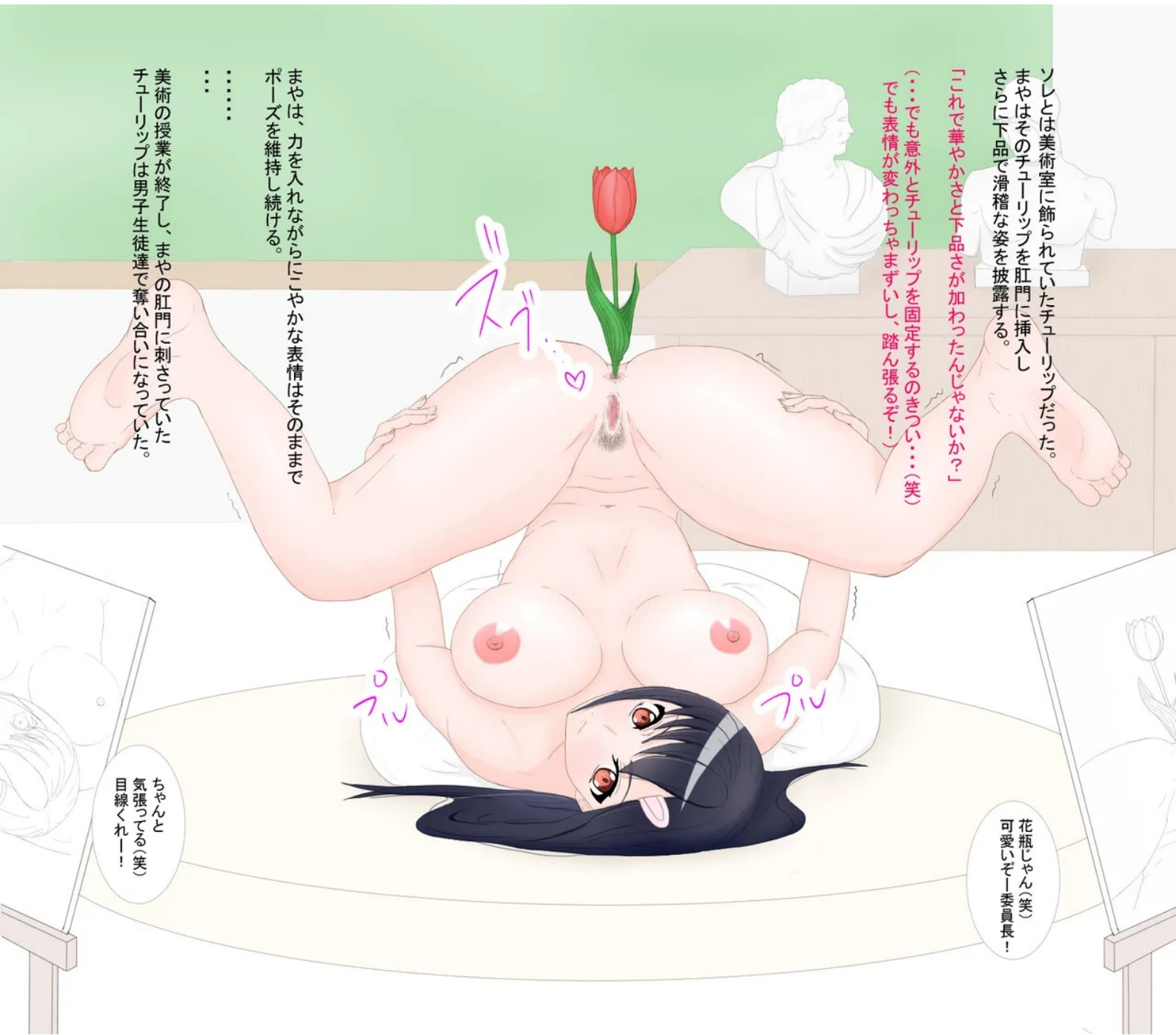
まやは、力を入れながらにこやかな表情はそのまま
ポーズを維持し続ける。

…
…
…

美術の授業が終了し、まやの肛門に刺さっていた
チューリップは男子生徒達で奪い合いになっていた。

花瓶じゃん(笑)
可愛いぞー委員長！

ちゃんと
気張ってる(笑)
目線くれー！



風紀

風紀委員長としての次の活動は、全校生徒にお尻を披露するというもの。
まやは、校舎裏の壁にお尻丸出しで
身動きとれない状態で、誰かが訪れるのを待っていた。

(誰でもいいから早く来てくれ。お尻が冷えてしまうぞ。)

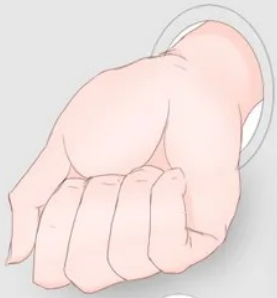
しばらくすると、噂を聞きつけたギャラリィがぞくぞくと
集まってきて、まやのお尻を取り囲んでいく。



(壁の向こうで人の気配がする。やっと来たか。)
「おい。そっちにいる人、
風紀委員の活動の一環だ。

私のお尻は好きにしていかなー!!」

まやの発言で集まった生徒達のテンションが上がっていく。



本当に痴女に
なってたんだな(笑)



まして風紀
委員長じゃん!
やっぱ(笑)

風紀

まやは躊躇なくパンツを剥がされ、恥部が丸出しになる。

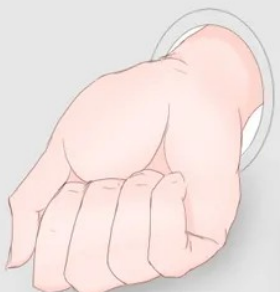
(おっ……いきなり剥がしてきたな……。
よし、下品な私の尻をもっと見てくれ……!)



自分の恥部を視姦されているまやは、催眠状態に陥っているため逆にもっと見てほしいと壁の向こうで期待しつづけていた。



ビブツ



すげー
生で初めて見るわ……



御開帳♪
丸出しえろろ!

風紀

(活動強化週間だからな…もっとサービスしてやるか。)

まやは自由になっている手をお尻に向けて、
肛門をばつくり開いてみせた。



その行動に、我慢できなくなった生徒達は
まやの肛門やいじり始めた。

「んん…っ！みんなでそんなにがつくなつて！
に、逃げないから、順番だ順番！」



おお広げ始めた！
中まで見えそう！

すげー…
どんな顔して
広げてんだ(笑)

ずにゆにゆ...

(んんっ...何か布のようなものを挿れられた...?)

風紀委員のシンボルである大事な腕章が、
まやのま〇こに挿入されていく。

自ら肛門を開きながら、守るべき証を
自らのま〇こで啜えさせられるという
恥辱的なことをさせられるまや。



「んんっ♡
...風紀活動中に気持ちよくなっちゃだめだ
...でも...はあっ♡」

腕章は出し入れされ、まや自身の愛液でドロドロになっていく。



すんなり
入っていくじゃん(笑)

あーあ、腕章
ぐちゃぐちゃ(笑)

風紀

ずりゅ...っ！

(んっ♡...よく分からないけど抜かれたようだな...)

愛液まみれになった腕章が取り出され、そのまま元の場所に飾られる。



まやは、ま〇こから愛液を垂れ流しながら肛門を開き続ける。



風紀

(んんっ!!!)

腕章を出し入れられ敏感になっている
ま〇こと肛門を複数人によって同時に激しく責められるまや
自慰行為の経験がないまやにとって、その刺激は強烈だった。
「んあっ♡…やめっ…!」

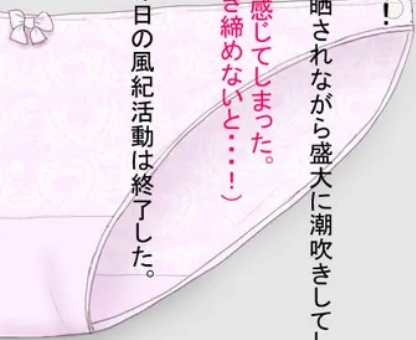


「んんん♡…!イ、イクッ…♡」

ゴッユ…!…!

多数の視線に晒されながら盛大に潮吹きしてしまっ。
(…結局私を感じてしまった。
気持ちを引き締めないと…!)

こうして、その日の風紀活動は終了した。



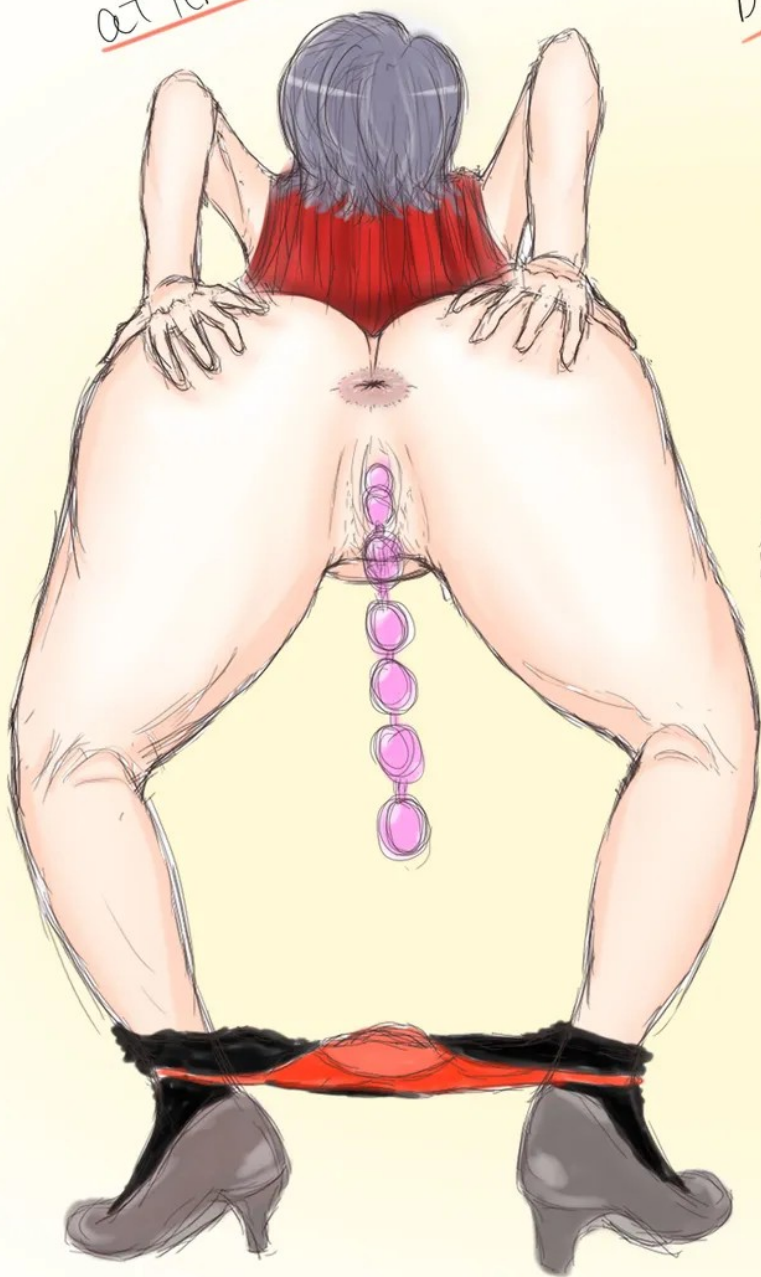
まやは、催眠をかけられていたこと自体把握しておらず、違和感を感じていなかったため、催眠時と通常時の境目が曖昧になっていた。そのため、風紀活動という名の破廉恥活動は続いていた。最初の頃のように大々的には行われなくなったものの、性欲が抑えられなくなった生徒限定で、影でこっそりと行われ続けている。



「おい、その男子！いかげん私を見て前かがみになるのをやめろ！
……放課後、校舎裏にすれば相手してやるから♡」

結果的に、文字通り体を張り、自分の意志で風紀維持に貢献できているため、風紀委員長としての務めは果たしていると、言えなくもない。 終わり

after♡



before♡



こんにちは わらびもちです。
この度はご購入いただき有難うございました。
今作は同じ絵柄で2パターンのストーリー構成にしてみました。
お楽しみただければ嬉しいです。
次回作は右のキャラクターに、恥ずかしい格好を
たくさん披露してもらおう予定です。(今年中の発売を目指します！)
下品で、そそられる内容にしていきたいと思っていますので、
お楽しみに！
ではまた！









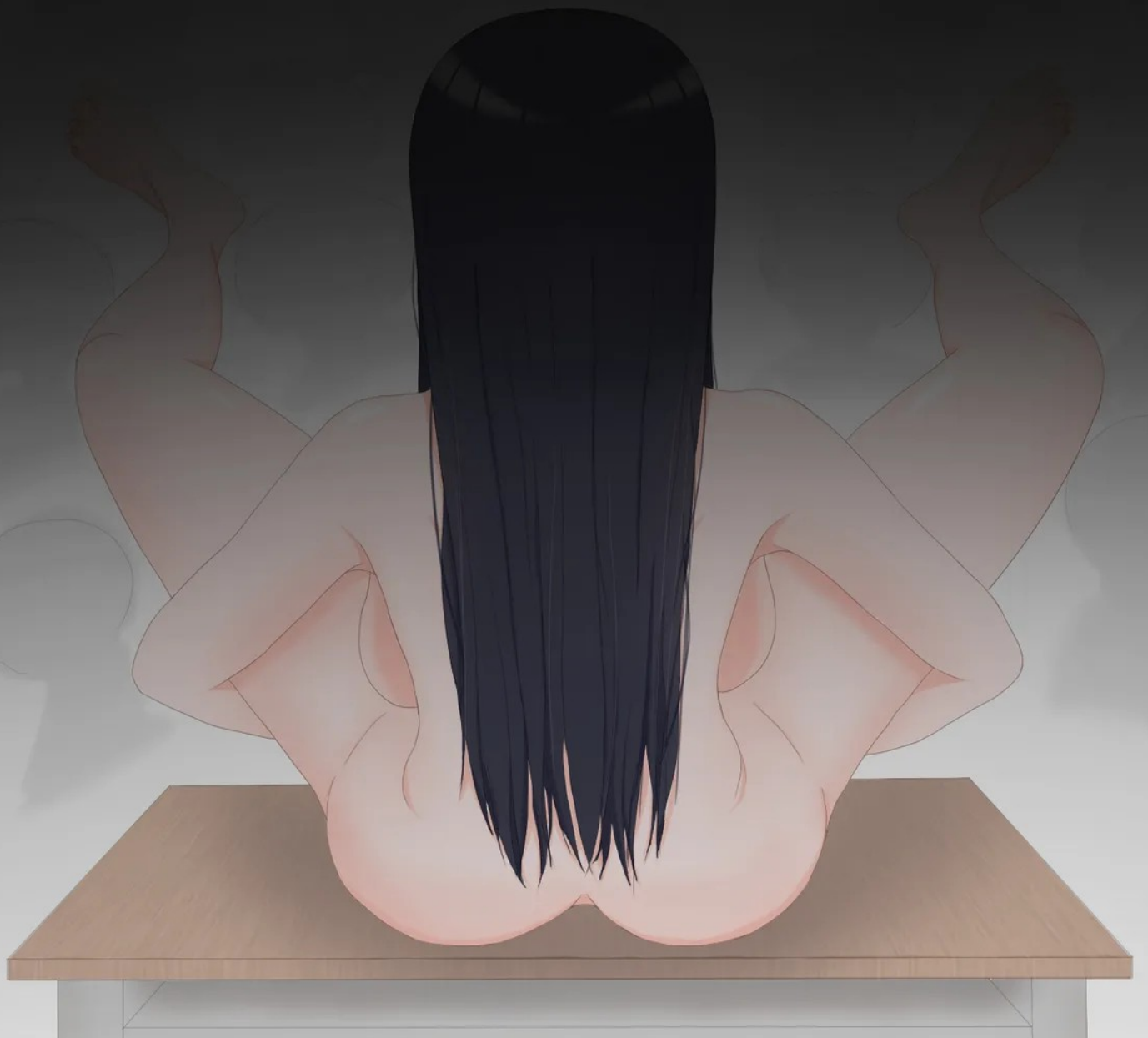


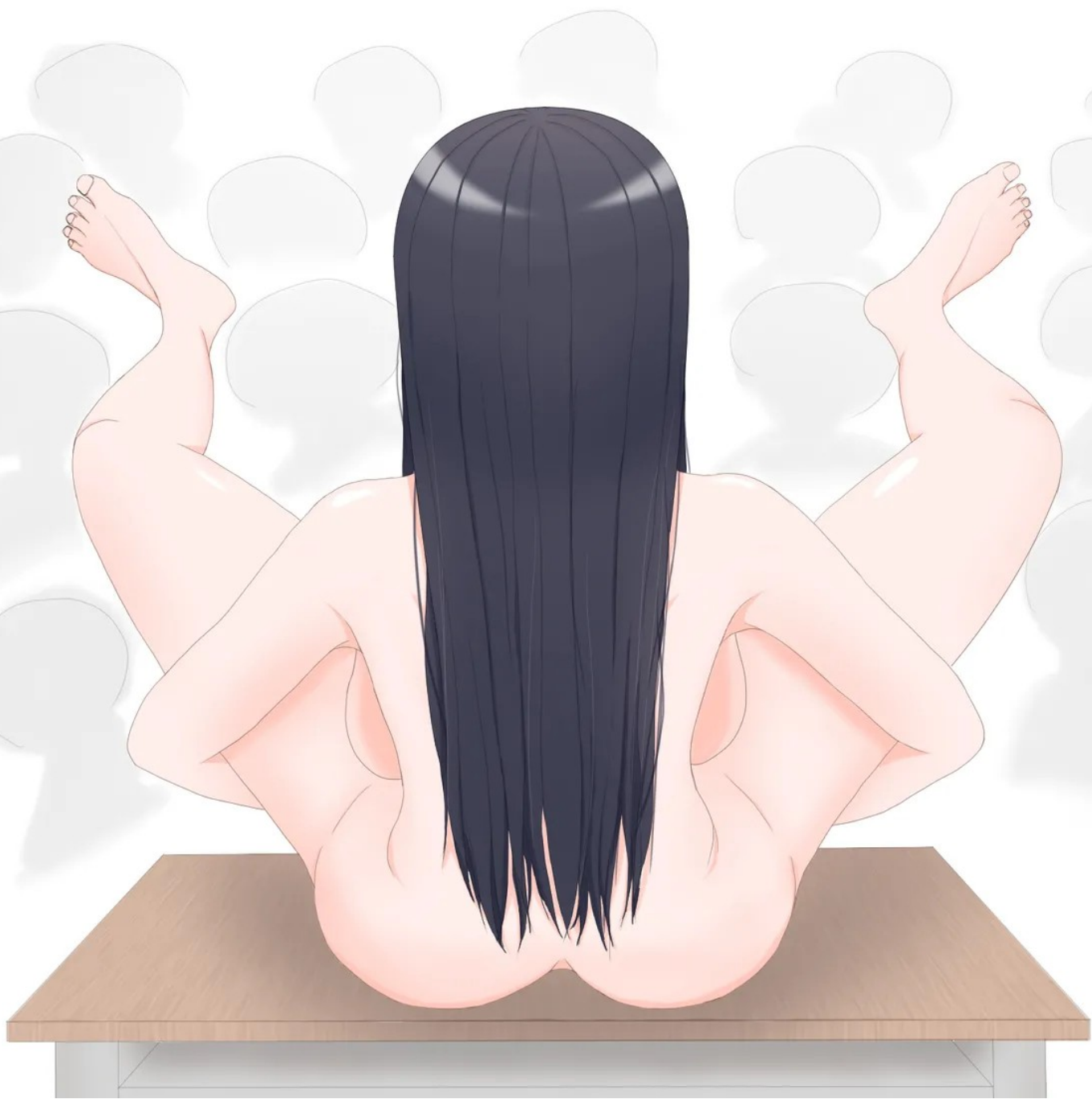












保険 体育 ♡



保険体育♡



保険 体育 ♡



保険 体育 ♡



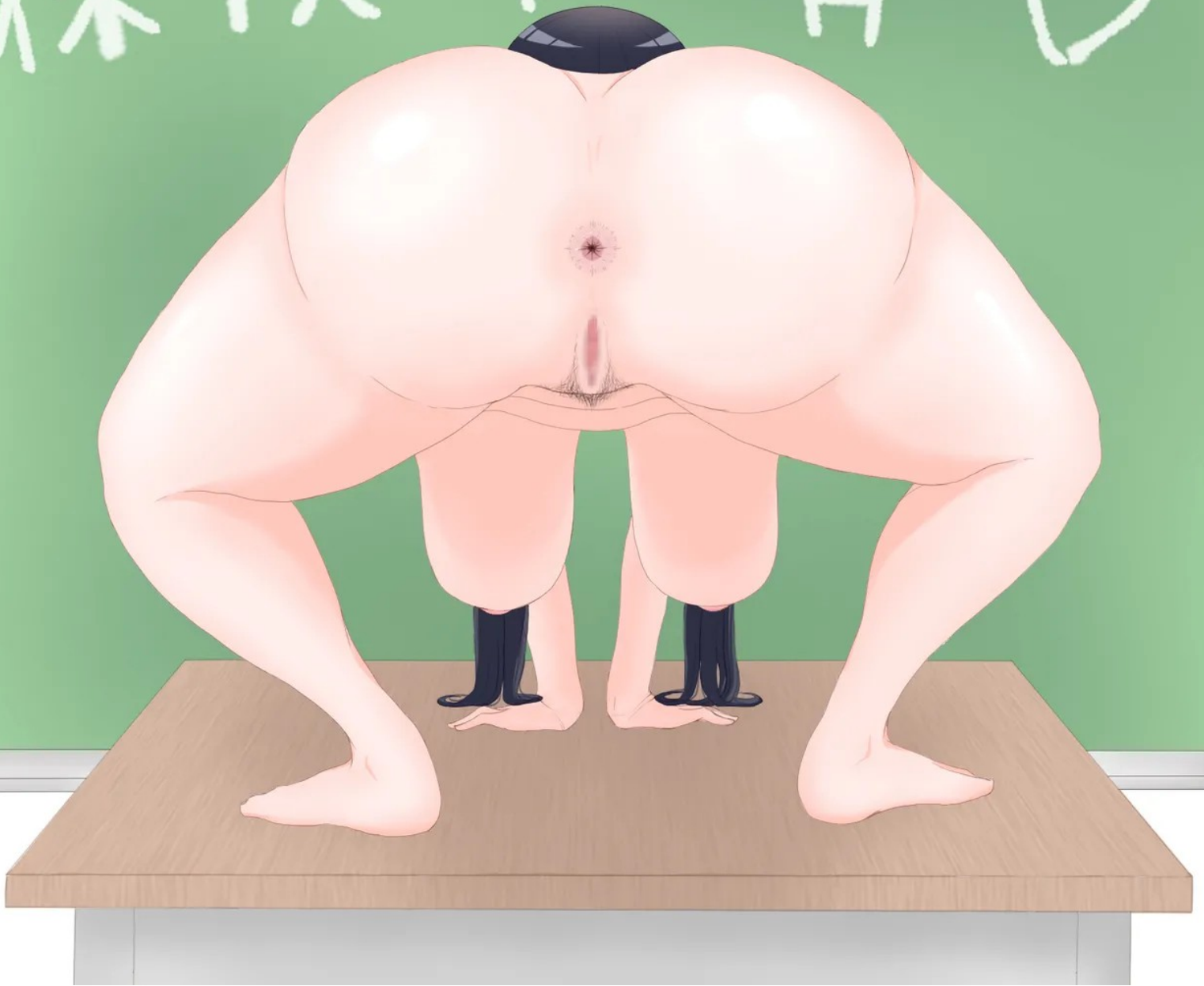




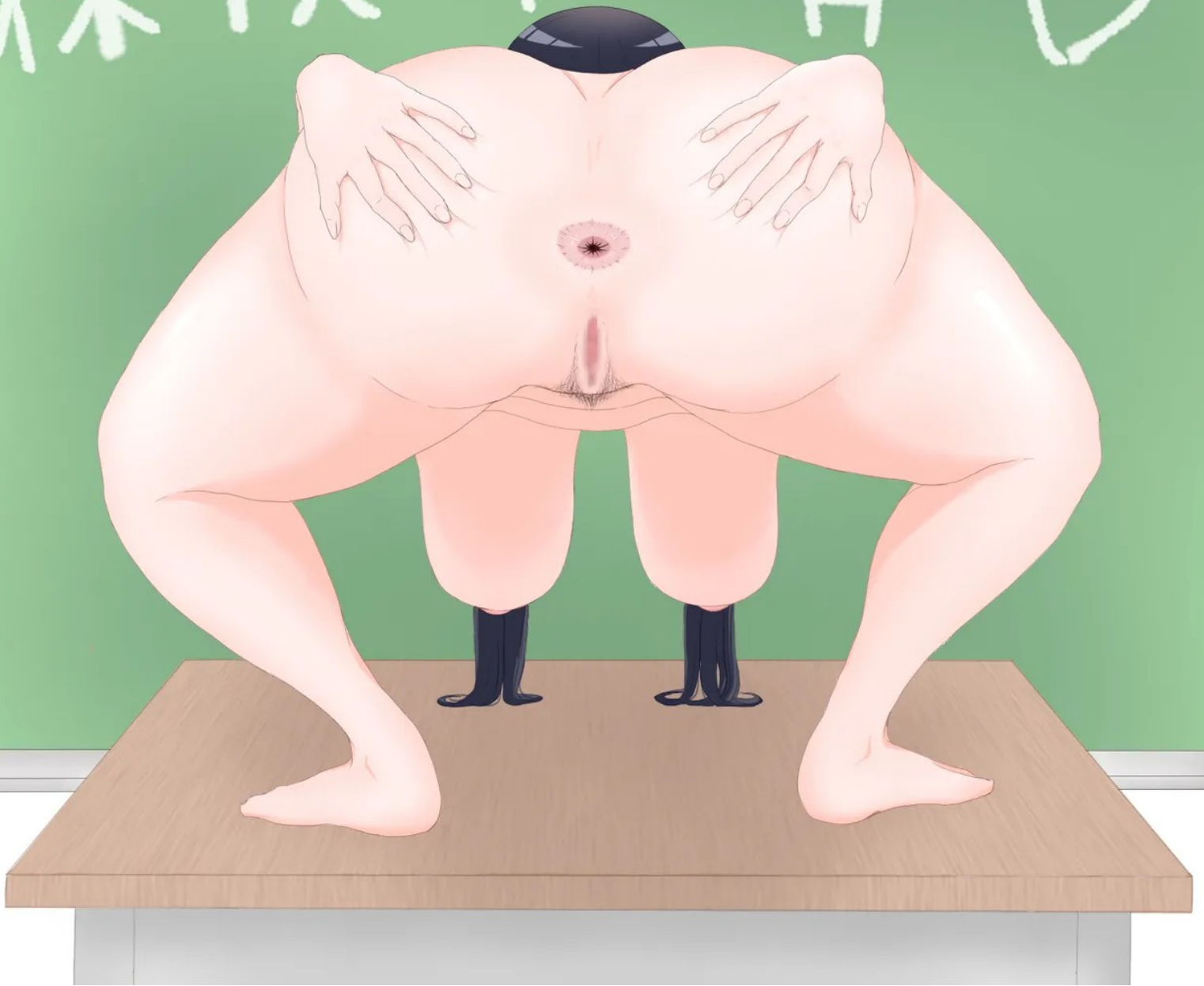




保 険 体 育 心



保 険 体 育 心























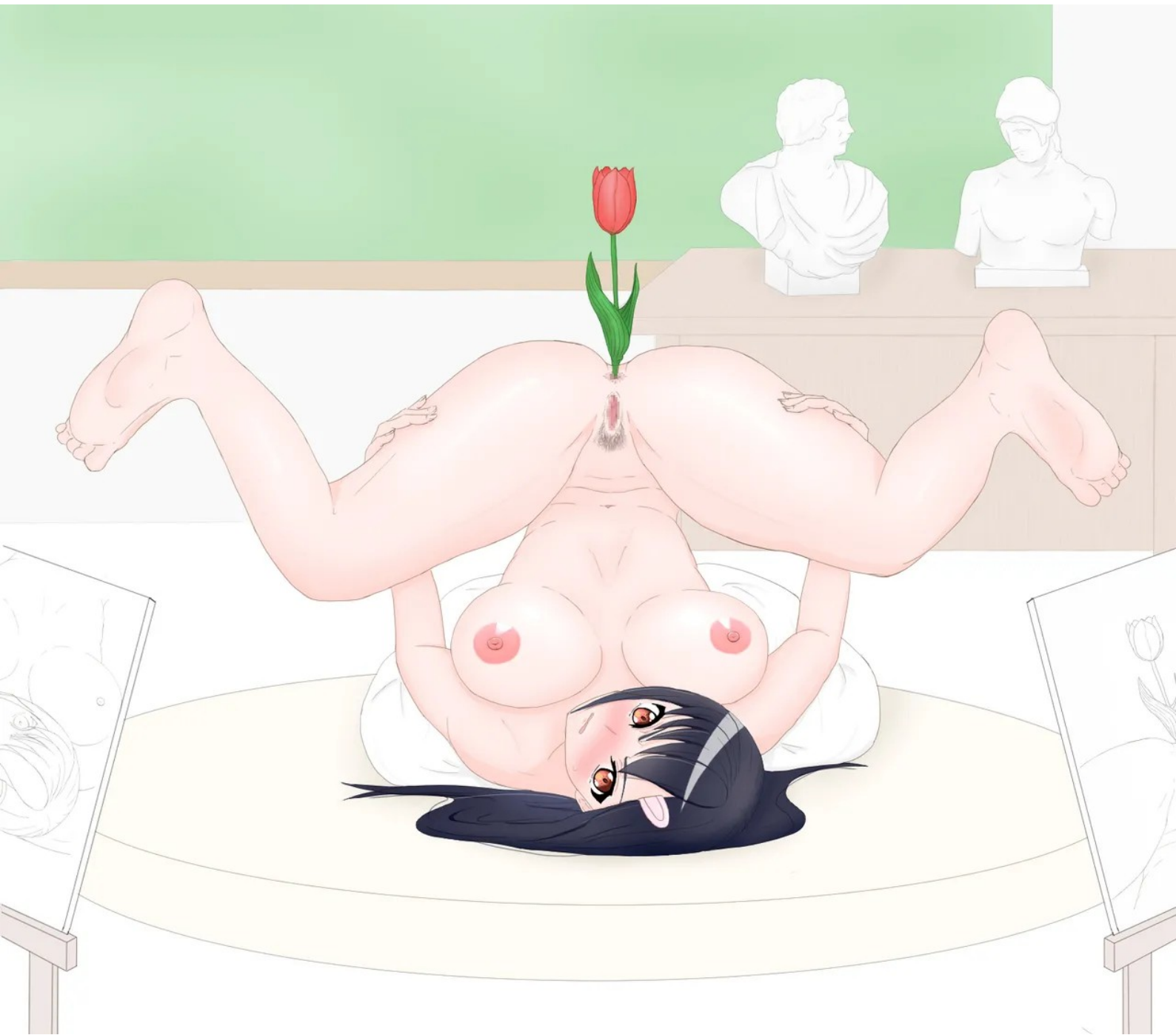




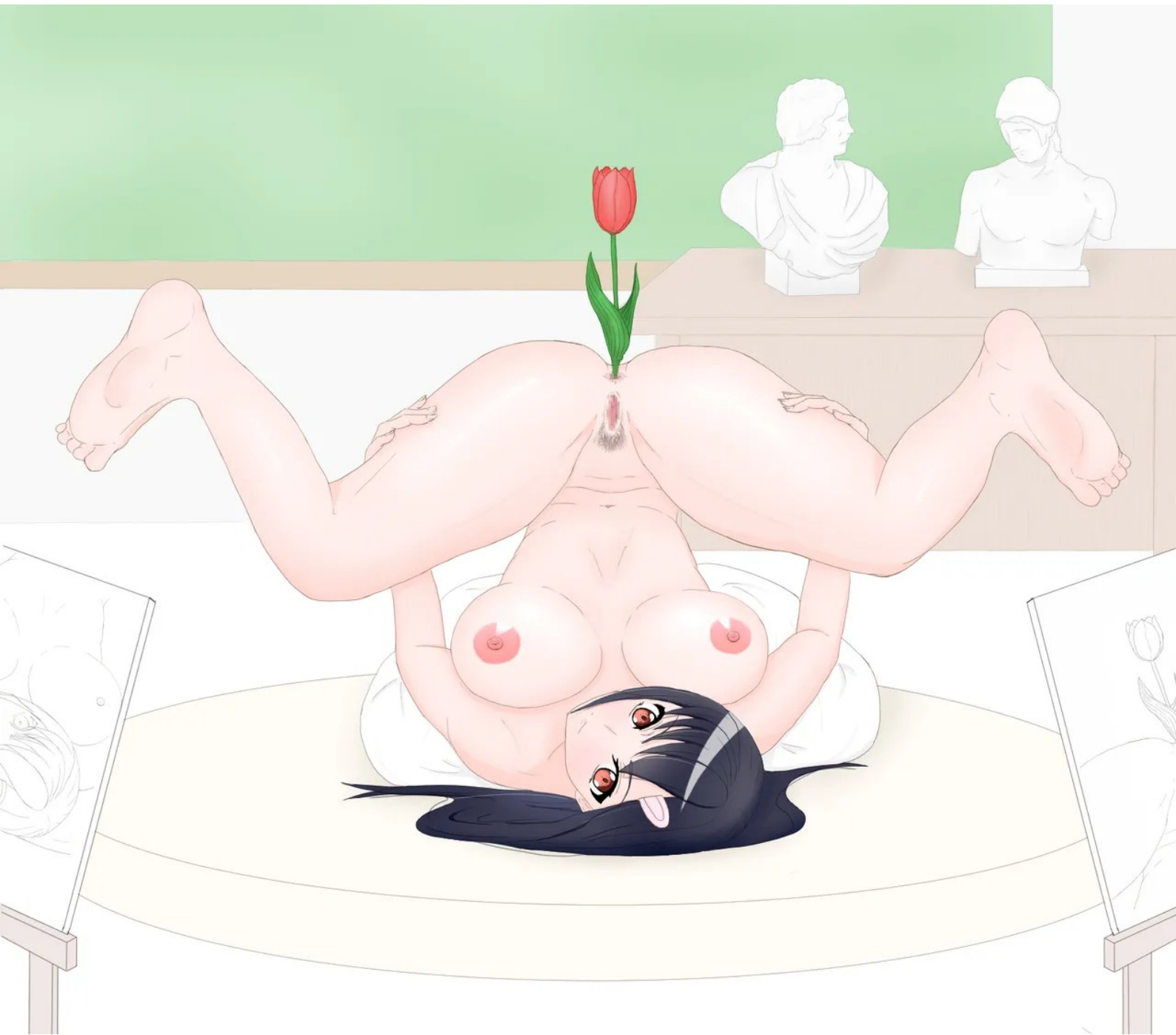














風紀委員長 東條まや

風紀





風紀委員長 東條まや





風紀委員長 東條まや





風紀委員長 東條まや





風紀委員長 東條まや





風紀委員長 東條まや





